

先ほどのACPの考えをもとに**3つの質問**を行い、取り組んだ事例を紹介します。

食事することが少しずつ難しくなってきたYさんに、次の**3つの質問**をしてみました。

- ①希望する終末期の医療はありますか。  
『胃瘻（胃に穴を開ける）、点滴、鼻腔栄養（鼻にチューブを入れる）は希望しない。』
- ②希望する最期の場所がありますか。  
『長年住んだ自分の地域に帰りたい。』
- ③しておきたいこと  
『中泊に帰り、地域の様子を見て後の人たちに伝えるべきことを伝えたい。』

と**希望**を教えてくださいました。そこから③に着目し、**外出支援**の取り組みを始めました。長男さんへ外出のお願いをすると『父が喜ぶなら』と快諾してくださり、昨年秋に実現しました。（下写真はその様子です）

自身が建てたお墓へお参り



老後の楽しみとしてイカ釣りをしていた**正福丸**と。  
廃船は「父に見せてから」とこの日を待って下さいました

自身が建てた自宅。  
長男嫁さん作の甘柿・黒糖菓子を久しぶりに食べました



お仏壇に線香をあげました  
当日は奥様の誕生日でした



知人や地域の和尚さんにも会えてお話ができました。Yさんが祝い船保存会代表時の活動仲間だそうです。

外出を終えて・・・

Yさん『もう一生家には帰れないと思う。助け船を借りて帰れた。ひと**安堵**しました。』  
長男さん『家まで入れたのはもう何年ぶりか、本当に**良い機会**となりました。』

ご家族の絆の深さに感動し、**外出支援を終了**しました。

そして数ヶ月後・・・

今年春、息子さんより『誕生日がきました。誕生祝いとして、  
また**自宅へ外出**させてやりたい。』と、嬉しい申し出がありました。

昨年の外出から徐々に体力が低下し、車椅子に座るのもやっとの状態となっていました。長男さんの申し出を皆で喜び“**もう一度**”と意欲がわいてきました。そして車椅子に座るリハビリを行い、6月に2回目の外出ができました！！

お墓参りへ



外出当日は奥様の月命日でした

職員が席を外し、親子水入らずの時間も持ていただくことができました



※写真は長男さんの許可をいただき掲示しております。

外出を終えて・・・

Yさん『**ありが10匹!**』  
長男さん『**本人が喜ぶならそれが良いです。**』

2回目の外出もご家族の**愛**に感動し、**外出支援を終了**しました。

**3つの質問 (①②③)** からスタートした取り組みでした。人生の終末期の過ごし方をお聴きし、「**今後したいこと**」という想いにつながり、実現することができた事例の紹介でした。今後もACP（表紙説明）の取り組みをご紹介していこうと思います。（ターミナルケア委員会）





